

港区長 殿

2019 年 3 月 29 日

平成30年度第三者評価結果報告書

〒 153-0063

住所 東京都目黒区目黒2丁目10番
5の101号

電話番号 03-3495-4283

評価機関名 特定非営利活動法人
関東シニアライフアドバイザー協会

代表者氏名 山下由喜子

下記のとおり評価を行ったので報告致します

記

評価者	評価調査者氏名		
	(1)	神戸 理	
	(2)	山田 俊明	
	(3)	山田 紀子	
	(4)		
対象事業所	放課GO→クラブあおやま		
評価実施期間	2018 年 9 月 1 日	～	2019 年 2 月 1 日
利用者調査実施時期	2018 年 10 月 1 日	～	2018 年 10 月 31 日
訪問調査日	2018 年 11 月 27 日		
評価合議日	2018 年 11 月 27 日		
評価結果報告日	2019 年 2 月 1 日		

総 評

◇特に良いと思う点

- 施設理念がプログラムに分かりやすく反映されています

施設は理念を「あったかい心を持つ子どもに育てる」としています。大地に育つ大木のイメージで、子どもたちを育てていくという理念です。実施する際には、あたま・こころ・からだの成長を三位一体として促しています。年間プログラムは「通年プログラム」「定期プログラム」として、大変分かりやすい形で企画をしています。子どもにとって魅力的なプログラムを、法人の理念に合わせて実施していくことで、職員や利用者にとっても、分かりやすく子どもの成長を支えていけるようになっていきます。

- 地域の連携を積極的に図り、子どもの安全安心の場としての活動に取り組んでいます

校庭ではサッカーやバドミントン、剣道など小学校でのクラブ活動が活発に行われていますが、授業終了後にクラブ活動が始まるまで1～2時間の空き時間が生じます。この間に部活待ちの児童を毎日50～100人の規模で受け入れることで、小学校との連携をしっかりと果たし、保護者の安心感にも繋がっています。いきいきプラザや児童館、他の放課GO→クラブとの交流も年間事業計画に組み込み、毎月1回以上の交流をしています。地域ボランティアとしてダンスインストラクター、将棋連盟のメンバー、フラワーアレンジメントや写真撮影の先生など、多くの専門家を受け入れています。小学校の卒業生の協力も得て、活発なボランティア活動が行われています。また、サポーターの協力を得て子どもたちの帰路の見守りを行っています。計4つのコースがあり、最寄り駅の入り口まで、もしくは大きな交差点を渡った先まで等の目的地まで送り届けるなど、安全安心の取り組みが充実しています。

◇更なる改善が望まれる点

- マニュアルを整理してより使いやすいものにすることが望めます

放課GO→クラブ運営の基本は受け入れた子どもに、年間を通して安全に過ごしてもらい、帰宅してもらうことです。そのため安全管理・危機対応マニュアルや下校路安全シート、各種フローチャートなどが整備されています。しかし、マニュアルとして一つのファイルにまとめられたものは確認できませんでした。食物アレルギー対応や事故対応などの安全管理を中心にして、その他の例えば登録時の説明マニュアルなども含め、全てのマニュアルをインデックスをつけて一つのファイルにまとめたり、改訂に合わせて差し替えるなど適切に管理することが望めます。

- 中・長期ビジョンの計画策定が期待されます

理念に沿った単年度計画を立て、様々な活動が行われています。実施後は必ず振り返りをして、次年度に活かせるようにしていますが、まだ3年から5年を見据えた中長期計画は立てられていません。学童クラブの利用児童が低学年中心となり、3年間の利用が多いため難しくなっている状況と思われます。施設が小学校の中にあり、校庭の空き時間等を放課GO→として、多くの利用があることを踏まえると、低学年から高学年の利用の仕方や異学年交流、地域の中学校などとの連携も含めた中長期計画を作成し、将来展望を開くことを期待します。

詳細講評

評価基準

- | | |
|---|--------------------|
| a | 評価項目を実施している |
| b | 評価項目を実施しているが十分ではない |
| c | 評価項目を実施していない |

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	評価項目	評価	コメント
(1) 理念、基本方針が確立されている。			
1	① 理念が明文化されている。	a	施設は基本理念として「あったかい心をもつ子どもに育てる」を定めて、こども理念・環境理念の2つに基づいた育ちの機会の提供をしています。こども理念では、「生きぬく力」「おとな力」「想像・想像力」を、環境理念では、「安全・安心」「あそび」「まなび」「絆」をもとに、理念実現に向け、家庭・学校・地域・港区と共に連携して取り組むことが施設のしおりに明示されています。
2	② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	
(2) 理念や基本方針が周知されている。			
3	① 理念や基本方針が職員に周知されている。	a	施設の基本理念・基本方針については職員全員に対し、職場配属前に研修を行い(配置前研修)周知されています。また、事務室ドアに掲示して、いつでも確認できるようにしています。学童クラブ利用者にはクラブ室内に子どもたちに分かりやすく掲示しており、保護者には新入生説明会や年2回の保護者会等で説明しています。
4	② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	a	

I-2 計画の策定

	評価項目	評価	コメント
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
5	① 中・長期計画が策定されている。	b	理念に沿った単年度計画を立て、様々な活動が行われています。実施後は必ず振り返りをして、次年度に活かせるようにしていますが、まだ3年から5年を見据えた中長期計画は立てられていません。学童クラブの利用児童が低学年中心となり、3年間の利用が多いため難しくなっている状況と見られますが、学校内の施設という特性を活かした具体的な中長期計画を策定していくことが望まれます。
6	② 中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	b	
(2) 計画が適切に策定されている。			
7	① 計画の策定が組織的に行われている。	a	年間計画策定時には前年の見直しなどと同時に、保護者会等で出た意向を把握することや、日常的に学校職員との情報交換・連携の中で把握した内容が反映できるよう、新年度の各プログラム担当者と副担当で協議・立案を行っています。職員会議で決定した計画は、年間事業計画・年間行事予定として、年度初めに全職員に配布・説明され、保護者会等で周知されています。
8	② 計画が職員や利用者等に周知されている。	a	

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

	評価項目	評価	コメント
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
9	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	a	法人では全職員が、配置前研修を受講しその中で職務分掌の確認を行い、役割と業務内容の確認及び管理者の役割と責任を表明しています。また、遵守すべき法令等の説明も職員全員が受講する研修を通じて説明を受けています。法人の「安全管理・危機対応マニュアル」「天災・事故・ケガ・感染症等の対応チャート」を用いて、具体的に職員が理解し、行動できるように取り組んでいます。
10	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
11	① 質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	全職員に対して、クラブ室が子どもたちにとって、ホッとできる場所、「くつろぎの空間」となるよう室内環境の整備に努めるよう指導しています。また、毎日の登所時には一人ひとりへの声掛け等の働きかけにより、心身の健康状態を把握し、必要な対応を行っています。毎日の出来事については、「77項目の業務チェックシート」での安全管理、「ヒヤリハット記録」、「ケガ記録」及び「振り返りシート」を使って全職員が情報を合理的に共有できるように、打合せ時間を効率的に管理できるようにしています。
12	② 経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	a	

II 組織の運営管理

II-1 経営状況の把握

	評価項目	評価	コメント
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
13	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	a	施設の所在する南青山地域は、「未来に向け共存できるまち赤坂・青山～魅力あふれる国際都市へ～」という地区のローガンがあり、人口動態調査より、児童数の増加により、障害児・特別の配慮を要する児童の増加等にも配慮していく必要があります。また、(仮称)子ども家庭総合支援センター開設に向けて、子育て環境への関心が一層高まっていくことが予想されています。こうした環境の中で、職員へは放課後児童クラブ運営指針の統合教育の考えを理解できるよう、適切な配慮と環境整備を行うよう周知しています。また、経営状況の分析や課題については、本部施設長会議や、赤坂支所の運営会議に出席し、法人と区担当者との連絡調整を密にして改善すべき課題を検討しています。
14	② 経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	a	
15	③ 外部監査が実施されている。	a	

II-2 人材の確保・育成

	評価	コメント
(1) 人事管理の体制が整備されている。		
16	a	人材確保は募集要項に基づき、本社にて採用決定されています。採用に当たっては、教員免許や保育士免許等の資格保有者が優先され、筆記、面接試験にて決定しています。施設における人員要求に関しては、SHOPRO(小学館プロダクション)月次報告書で施設状況及び要望書により行うことになっています。また、人事考課はキャリアアップ研修の受講状況や、現場での勤務状況などの客観的成果に基づき法人本部で評価されます。
17	a	
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
18	a	職員の意向は、年3回の個人面談を通じてその把握に努めています。個人面談シートを個別に作成し、各自の意見や希望及び目標を設定して面談時に効果を確認しています。また、福利厚生に関してはベネフィット会員制をとっています。健康診断の他、ハワイ研修旅行制度、各保養所の利用や書籍割引制度等の制度を設けています。
19	a	
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
20	a	法人は職員の質の向上に向けた取り組みとして、入社時の新人教育研修(入社時・6か月・1.5年後)や、階層別研修、外部研修を設定して研修体制を整えています。また、個々の職員のキャリアアップを図るため、マネジメントやビジネス研修、管理者のための外部講師を招いた必須の研修や、衛生管理(アレルギー等)、危機管理研修等を設定しています。「すべての事業活動の根底にあるものは…安全」と法人のホームページにもあるように、職員一人ひとりがリスク管理・危機管理能力の維持・向上に努めています。
21	a	
22	a	

II-3 安全管理

	評価項目	評価	コメント
	(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。		
23	① 緊急時(事故、感染症の発生時など)の対応など利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	施設は区立小学校の地下一階にあり、外部からの侵入や地震をはじめとする自然災害への対応は小学校と一体で取り組むべきものです。例えば不審者への取り組みは事務室に「不審者発見時の対応方法」としてフローチャートが掲示されており、救急車の要請手順なども職員全員が常に携帯しています。校庭や体育館を含め、放課GO→クラブの室内、室外の70カ所に及ぶ箇所の安全点検がチェックリストを用いて毎日実施されています。運営法人には本社に安全管理室があり、毎年本社スタッフによる安全点検が行われており、点検→指摘→改善が繰り返されています。
24	② 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	a	

II-4 地域との交流と連携

	評価項目	評価	コメント
	(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
25	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	a	元気な高齢者が集う地域のいきいきプラザや児童館、他の放課GO→クラブとの交流を年間事業計画に組み込み、毎月1回以上の交流を果たしています。「あなたもマジシャン」と題する小学校の理科室を借りてのマジックの取り組みは好評で、単にマジックを習得するだけでなく、皆の前で発表することで、子どもたちは達成感を得ることができます。サッカーやバトミントン、剣道など小学校でのクラブ活動が活発に行われていますが、授業終了後にクラブ活動が始まるまで1~2時間の空き時間が生じます。この間に部活待ちの児童を毎日50~100人の規模で受け入れており、小学校との連携をしっかり果たしています。ボランティアとしてダンスインストラクター、将棋連盟のメンバー、フラワーアレンジメントや写真撮影の先生など、多くの専門家を受け入れています。小学校の卒業生の協力も得て、活発なボランティア活動が行われています。
26	② 事業所が有する機能を地域に還元している。	a	
27	③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a	
	(2) 関係機関との連携が確保されている。		
28	① 必要な社会資源を明確にしている。	a	公立図書館と連携し、図鑑をはじめとした本のリサイクルの図書館からの寄付も受けて、図書類の充実を図っています。児童館や近隣保育園、他の放課GO→クラブとの連携等を通じて情報共有を図り、保護者に対して必要な情報提供を行っています。現在、計7名のサポーターの協力を得て子どもたちの帰路の見守りを行っています。計4つのコースがあり、最寄り駅の入り口まで、もしくは大きな交差点を渡った先まで等の目的地まで送り届けています。
29	② 関係機関等との連携が適切に行われている。	a	
	(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
30	① 地域の福祉ニーズを把握している。	a	開室時間の延長を要望する保護者に対しては、民間の放課後児童を預かる近隣施設の紹介を行い、利用者満足度の向上に取り組んでいます。区の「子どもの未来応援施策理解促進事業」としての港区子どもの未来応援フェスタなどにも参加し、意見交換や情報共有を行って、地域のニーズの把握に努めています。その他、地球温暖化防止全国ネットやあなたも美文字、異文化交流など、保護者ニーズも考慮して様々な活動への参加を心がけています。
31	② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	a	

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	評価項目	評価	コメント
	(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
32	① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	異年齢、異学年の子どもが毎日多数集っています。お互いの個性と人権を尊重するためには、言葉遣いの指導が重要な要素の一つです。言われると暖かい気持ちになる「ふわふわことば」と、悲しい気持ちになる「ちくちくことば」とに分類して、クラスの壁に大きく貼りだしています。「ありがとう」「いいね」「ごめんね」などは言われて気持ちが和みます。「きらい」「こないで」「あそばない」などは聞いて気持ちがちくちくする言葉です。配属前研修でプライバシー保護や子どもの人権尊重を含む指導者研修を全職員が受けており、子どもたちが不適切な言葉で友達を傷つけることが無いよう、指導しています。
33	② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	a	
	(2) 利用者満足の向上に努めている。		
34	① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備している。	a	日頃から保護者とのコミュニケーションを重視しており、話し合った内容は保護者対応ノートに記載され、職員間で共有されています。職員ミーティング結果はミーティングノートに記載されます。保護者会では放課GO→クラブ内での子どもたちの日常を撮影した写真をプロジェクターを用いてスライドショーで披露したり、使用している玩具や作品を展示して日頃の様子を保護者がイメージしやすい工夫をしています。
35	② 利用者満足の向上に向けた取組を行っている。	a	子どもの成長の喜びを共有し、共通の世界を創り出すことで子どもに関する情報を家庭と放課GO→クラブとで共有する取組が行われています。
	(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
36	① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	a	日頃から子どもの情報を保護者と共有しながら成長を見守り、誠意をもって対応していくことの積み重ねが気軽に相談できる関係づくりでの大切な基本と考えて、その環境づくりに取り組んでいます。個人面談や毎日の連絡ノートで保護者からの要望等は受け付けていますが、電話での問い合わせなどは保護者対応ノートに記載され、職員間で共有されています。苦情対応については、配属前に受ける研修で苦情の際の心構えや、解決の仕組みなどについて全職員が学んでいます。苦情対応フローが備えられており、実際に苦情を受けた場合は担当職員がその場で対応し、施設長には口頭で報告がなされています。苦情受け付けのみをまとめた苦情受付簿のような帳票は特に作成されていません。
37	② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	a	
38	③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	a	

III-2 サービスの質の確保

評価項目	評価	コメント
(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。		
39 ① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	a	利用者からの意見や要望などは区で行っているアンケート結果や連絡帳、日々のコミュニケーションから把握できるようにしています。小学校の校長・副校長・PTA役員・外部有識者・行政担当で開催されている協議会での当学童クラブの運営や実施事業内容についての評価を参考にして、施設目標に沿って検討できるように「施設目標シート」を使って課題を明確にできるようにしています。
40 ② 評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にしている。	a	業務チェックは毎月行われ、日常の子どもの様子やプログラムの参加状況や声を大切にされた運営ができるように取り組んでいます。新しいプログラムを実施する際には、「あたま」「からだ」「こころ」を十分使えるように企画をしています。避難訓練や安全指導の時は全員参加で行いますが、そのほかのプログラムは子どもの自由参加になっており、自主性や主体性を養えるような工夫をしています。
41 ③ 課題に対する改善策・改善計画を立て実施している。	a	
(2) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
42 ① 個々のサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	a	基本理念「あったかい心をもつ子どもに育てる」にそって、年間プログラムを作成しています。学期ごとに目標を立て、毎月の行事や地域行事、学童クラブ行事、通年や定期プログラムなどが一覧表になっています。通年プログラムと定期プログラムは「あたま」「からだ」「こころ」をテーマ別に分けて記載されており、子どもたちが一年間を通じて様々な経験をしていく中で成長を促していくように取り組んでいます。
43 ③ 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	プログラム実施後は、担当者間で振り返りをしてミーティングで共有し、次回に活かせるようにしています。
(3) サービス実施の記録が適切に行われている。		
44 ① 利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	b	職員は毎日ミーティングを行い、気になったことや子どもや保護者への対応を振り返りを行っています。記録は業務日誌や保護者対応ノート、特別支援対応ノート、気づきノート、ヒヤリハット簿、事故報告書のほか土曜日ノートにそれぞれの状況が記録されていますが、それぞれの記録が別々となっているため、記載された情報の共有の仕方やトラブル等の継続した対応が分かっていくなっているため、工夫が必要です。
45 ② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	個人が特定される記録は、鍵付きのキャビネットに保管し管理を徹底しています。
46 ③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	a	職員全員で共有できるように報告・連絡・相談を心掛けて、ミーティングを行っています。

III-3 サービスの開始・継続

評価項目	評価	コメント
(1) サービス提供の開始が適切に行われている。		
47 ① 利用希望者に対して活動選択に必要な情報を提供している。	a	入会希望の保護者に対しては、一人ひとり予約制をとって、丁寧に説明しています。施設見学や電話での問い合わせは随時受け付けています。小学校の入学説明会でも、放課GO→クラブについて説明しています。
48 ② サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	利用する際には、子どもたちの居場所としての「放課GO→」事業と生活の場としての「学童クラブ」事業についての違いや、一日の流れ、対象、保護者との連携などを分かりやすい資料にして説明しています。また、子どもの写真等を掲載する際には、個人情報同意書にサインしてもらい、同意を得ています。

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

評価項目	評価	コメント
(2)利用者に対するサービス実施計画が策定されている。		
49 ① サービス実施計画を適切に策定している。	a	今年度は、安全・安心な環境づくりと楽しい居場所づくり・地域連携を一層深めること・子どもたちの心とからだの調和をはぐくむ環境づくりを目標にして、年間プログラムを計画し実施しています。プログラム実施後には、担当者は子どもたちの様子や内容、反省を行い、ミーティングで職員が話し合い、次のプログラムに活かせるようにしています。毎月の業務チェックの際にも子どもの様子や声を大切にしたり振り返りや見直しを行っています。
50 ② 定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	

IV 放課GO→の活動に関する事項

評価項目	評価	コメント
1 遊びの環境整備		
51 ① 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている。	a	遊ぶ際のルールはスマイルマークを使って、子どもたちにわかりやすく親しみやすいように工夫して掲示をしています。学校のクラブ活動のため、校庭を使える時間が限られており、クラブ活動に参加する子どもも多いため、外遊びがなかなか難しい現状があります。そのため、室内環境を工夫して目的に応じたコーナーづくりをしています。「わいわいコーナー」では、子どもたちが、ブロックやボードゲーム、ごっこ遊びなどを仲間と一緒に、わいわいがやがやと楽しんで遊べるよう、「ほんよみコーナー」では、マンガや本を静かに読んだり、お絵かきやぬりえ、折り紙などが落ち着いてでき、静かにほっとできるように「まったりコーナー」を設けています。また、様々な材料を使って自由に制作活動が出来るように、リサイクル材料などもそろえています。
52 ② 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している。	a	
53 ③ くつろいだり、休憩したりするふれあいスペースを作っている。	a	
2 保護者への対応		
54 ① 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している。	a	保護者懇談会では、保護者同士が交流できる機会を設けています。職員はお迎えの時や学校公開などの行事に参加した時に、保護者とコミュニケーションをとりながら、放課GO→の行事やPTA主催の行事に参加しやすいよう働きかけています。また、子どもの帰宅時等の安全を見守ってくれるサポーターの会への参加も促しています。
3 児童への対応		
55 ① 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している。	a	子どもたちが気軽に安心して過ごせる場となるように、日ごろから子どもとの関わりを大切にして、信頼関係が築けるように心がけています。登室時や友だちとのやり取りなどの様子から感じるちょっとした気づきをミーティング等で職員間で共有しています。内容によっては保護者や担任と一緒に対応しています。
56 ② 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている。	a	
57 ③ 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深める取り組みが行われている。	a	
58 ④ 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・主体性を育てることを意識して企画されている。	a	

4 利用者からの相談への対応		
59	① 利用者からの相談への対応が自然な形で行われている。	a 子どものお迎えの時や保護者が多く参加する学校公開の時を利用して、積極的なコミュニケーションを取るようになっています。子どもの日頃の様子や成長が感じられることを伝えていく中で、ちょっとした気になることでも相談できるような雰囲気づくりに努めています。子どもたちの意見はかえりの会やお楽しみ会やハロウィンでの希望を書いて箱に入れてもらう等、日頃から声を聞く機会を設けています。
60	② 虐待を受けた児童や不登校児への支援体制が整っている。	a 虐待や不登校など気になるケースに対しては、日頃の様子を丁寧に見守り、ミーティング等で情報を共有し、関係する各機関と連携をとって対応できるようにしています。
5 障害児への対応		
61	① 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている。	a 入会時の面接で子どもの様子や保護者の状況などを聞き取り、「生活状況調査書」にも記入してもらっています。一人ひとり異なる支援方法は職員全員で共有し、日々の対応は特別支援ノートに記録しています。特別支援学校の定期的な巡回指導や情報交換等で、具体的な支援方法やスキルを学んでいます。
6 地域の子育て環境づくり		
62	① 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している。	a PTA主催のフェスティバルでは、プロの声優が音と映像にあわせて読み聞かせを行う「おはなし玉手箱」を担当して、放課GO→クラブあおやま独自のプログラムとなっています。「子どもの未来を応援する地域交流会」や地域の交流会にも参加し、子どもの課題を共有できるように取り組んでいます。
63	② 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている。	a 現在、7名のサポーターの協力を得て子どもたちの帰路の見守りを行っています。計4つのコースがあり、最寄り駅の入り口まで、もしくは大きな交差点を渡った先まで等の目的地まで送り届けています。
7 広報活動		
64	① 広報活動が適切に行われている。	a 毎月、放課GO→クラブだよりを発行しています。日々のカレンダーやお知らせ、プログラム内容、放課GO→クラブ写真館が分かりやすく工夫されて掲載されています。学童クラブの保護者には、おやつメニュー表やお誕生日会など学童クラブ独自の行事の様子が配布されています。「おはなし玉手箱」などの講師を招いた際には、チラシを配布して周知を図っています。
65	② 放課GO→クラブの活動内容をわかりやすく知らせ、利用促進につながるように創意ある広報活動が行われている。	a また、たよりやポスター掲示はもとより、地域の会議や懇談会への出席、子どもの安全見守りの活動などをすべてを広報活動として考えて行っています。